

# 追悼 故 丸岡洋司 先生

石 積 勝



私のもっとも信頼する友人、私のもっとも頼りにしていた大学改革の、教育改革の同志、丸岡さんが昨年暮れ12月20日に逝ってしまいました。9月に検査入院して僅か3か月の出来事でした。あっという間で、未だにあれは夢幻の世界の出来事ではなかったかと錯覚することさえあります。

丸岡さんを良く知る人は「よりによってまたなんで丸岡さんが」という思いを持たれていると思います。丸岡さんは確かに真面目な人でした。しかしその真面目さはか細い神経の持ち主の真面目さとは違いました。大胆であり、柔軟でもある真面目さでした。ただ彼は問題に真正面から立ち向かう男でした。適当なところで妥協することを「よし」としない男でした。その真面目さは病魔に襲われる一因であったかもしれません。

丸岡さんはその純粹さと情熱によって学生をひきつけました。本学の出身であること、教員生活に至るまでに実に様々な経験を積んできたことと相俟って、やはり彼の「純粹」と「情熱」は学生諸君から絶対的な支持を勝ち得ていたのです。彼の情熱あふれる講義は経営学部の中でも出色でした。卒業後も多くの学生が彼を慕っ

て連絡してきました。亡くなった今もそうです。

丸岡さんは思想家でした。思想家ではありましたが、いわゆる知的ディレクティビズムとはもっとも遠いところにいる人でした。実践を通じて絶えず現実に立ち返り、思想を鍛える。そういう骨太の思想家でした。自分の足もとの現実と、学問による社会理解との間をけっして乖離させてはならない。その決意に支えられて、彼は鋭い言説を吐きつづけました。彼の残した最後の文章「現代大学教育の問題点」はまさしくそうしたものです。丸岡さんの飾り気のない誠実な人柄とともに、彼の残した数々の本質に迫る発言は、残された我々にいつまでも刻み込まれているものと信じます。

残された奥様ワンペンさんと幼いお二人のお子さんは、当面、日本に留まることにされたようです。我々もできる限りの支援をしたいと考えます。丸岡さんどうか安らかに眠って下さい。

合掌

## 追記

1 葬儀参列者の皆様にお配りした冊子「丸岡洋司 最後のメッセージ」を入手したいというご希望が多数ありました。当日読み上げた弔辞も含めた改訂版を横浜キャンパス教授控え室、平塚キャンパス講師控え室にそれぞれ相当部数用意させていただきました。ご希望の方はご自由にお持ち帰り下さい。

2 現在、「丸岡洋司遺児育英募金」活動を行っております。こちらのほうも上記と同様にご案内の文章を置かせてもらっております。できるだけ多くの方々からのご協力をお願いする次第です。なお募金活動の幹事は横浜キャンパスは経営学部の後藤晃先生、平塚キャンパスは経営学部の榎本誠先生にお願いしておりますので、必要に応じお尋ね下さい。